

長崎県における 肉用牛をめぐる情勢



長崎県農林部畜産課

【R6. 6】

長崎県内の肉用牛飼養戸数・頭数 (R5. 4. 1現在)

長崎県内における飼養戸数については減少傾向にあり、令和5年4月1日現在では2,084戸（対前年96.9%）となっている。飼養頭数については減少傾向にあったが、平成27年を境に増加傾向に転じており、令和5年4月1日現在では92,764頭（対前年101.2%）となっている。

地域別に見ると、飼養戸数は本土地域（県央・島原・県北地域）が1,245戸と約60%を占めており、離島地域（五島・壱岐・対馬地域）が839戸と約40%を占めている。飼養頭数は、本土地域が73,813頭と約80%を占めており、離島地域が18,951頭と約20%を占めている。

また、繁殖めす牛は島原・県北・五島・壱岐地域が29,382頭と約90%を占めており、肥育牛は県央・島原地域が18,648頭と約78%を占めている。

肉用牛飼養状況の動き



(表) 地域別・経営タイプ別飼養頭数

(単位:頭)

振興局名	肉用牛				割合
		繁殖めす牛	肥育牛	その他	
県央	19,733	2,934	11,926	4,873	21.3%
県北	18,478	9,351	3,626	5,501	19.9%
島原	35,602	8,883	10,089	16,630	38.4%
五島	8,698	5,112	601	2,985	9.4%
壱岐	9,776	6,171	1,521	2,084	10.5%
対馬	477	313	0	164	0.5%
県計	92,764	32,764	27,763	32,237	100%

出典: 令和5年4月1日現在長崎県家畜・家さん飼養頭羽数等調

※繁殖めす牛: 黒毛和種及び褐毛和種(12ヶ月齢以上)

※肥育牛: 黒毛和種及び褐毛和種(老廃牛含む)

※その他: 繁殖牛(繁殖めす子牛等)、肥育牛(交雑種等)

数値は長崎県畜産課調べ (令和5年4月1日現在)

繁殖雌牛及び肥育牛の飼養戸数・頭数 (R5. 4. 1現在)

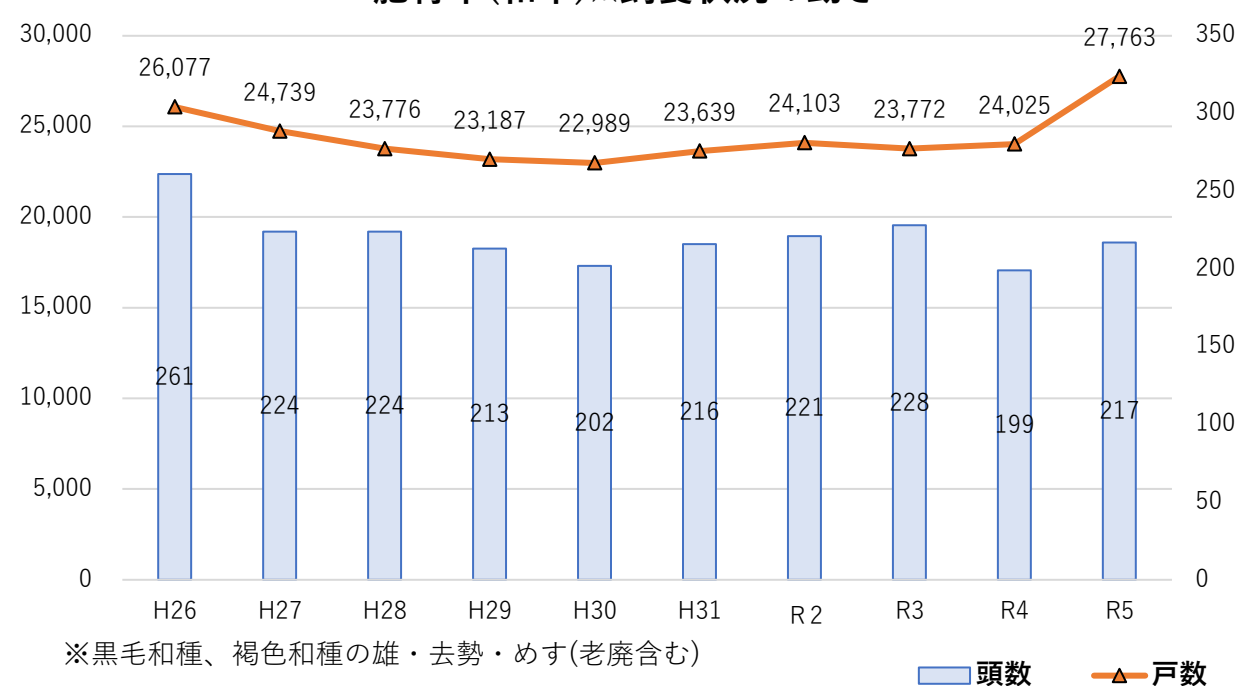
繁殖めす牛（黒毛和種及び褐毛和種）の飼養戸数については減少傾向にあり、令和5年4月1日現在では1,938戸（対前年約96%）となっている。飼養頭数については減少傾向にあったが、平成27年を境に増加傾向に転じており、令和5年4月1日現在では32,764頭（対前年約101%）となっている。

肥育牛（黒毛和種及び褐毛和種）の飼養戸数は、令和5年4月1日現在では飼養戸数が217戸（対前年約109%）と増加した。飼養頭数は、27,763頭（対前年約116%）と増加している。

繁殖めす牛(和牛)※飼養状況の動き

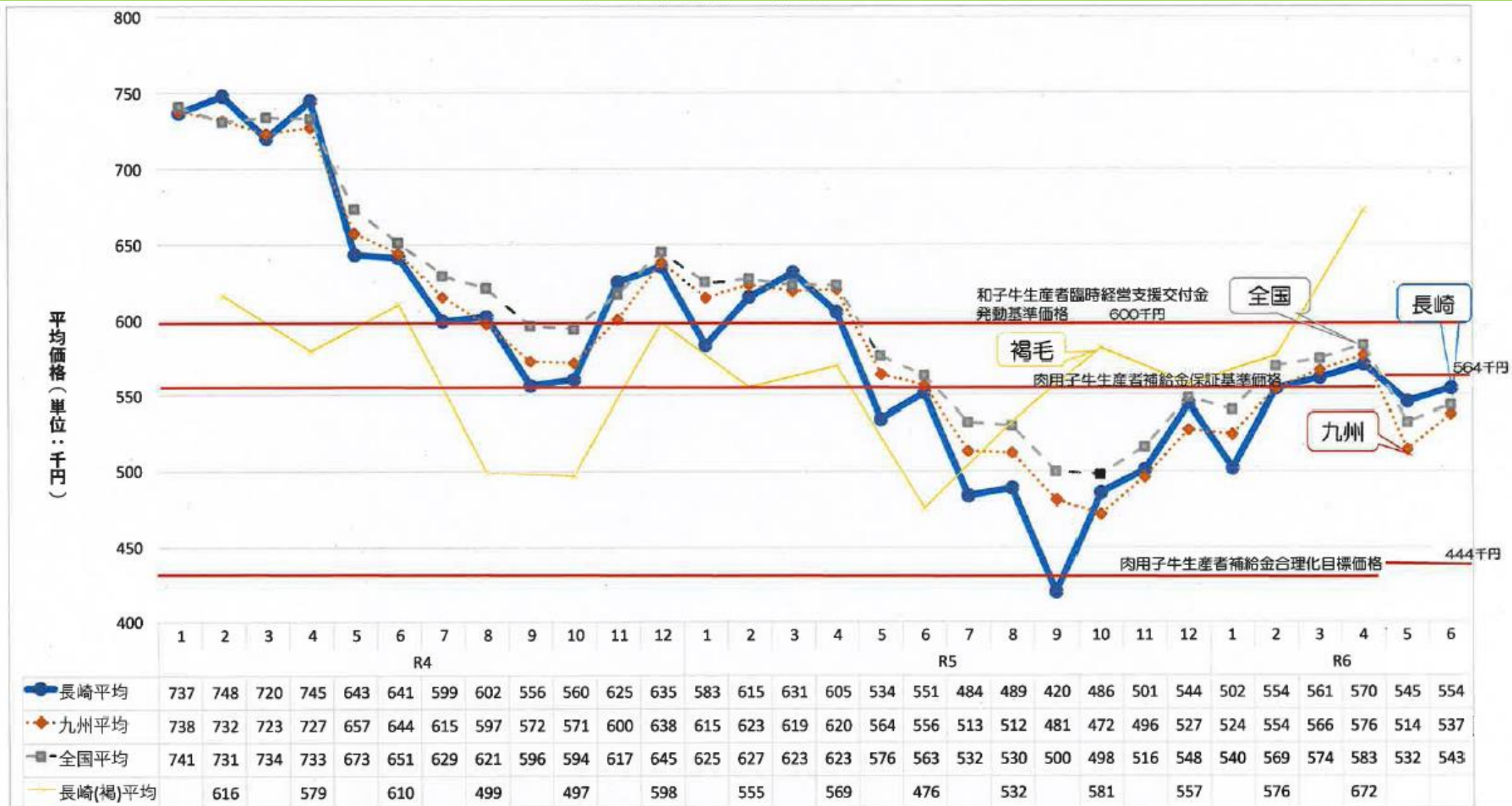


肥育牛(和牛)※飼養状況の動き



数値は長崎県畜産課調べ（令和5年4月1日現在）

長崎県内における子牛価格の動向 (R6.6現在)



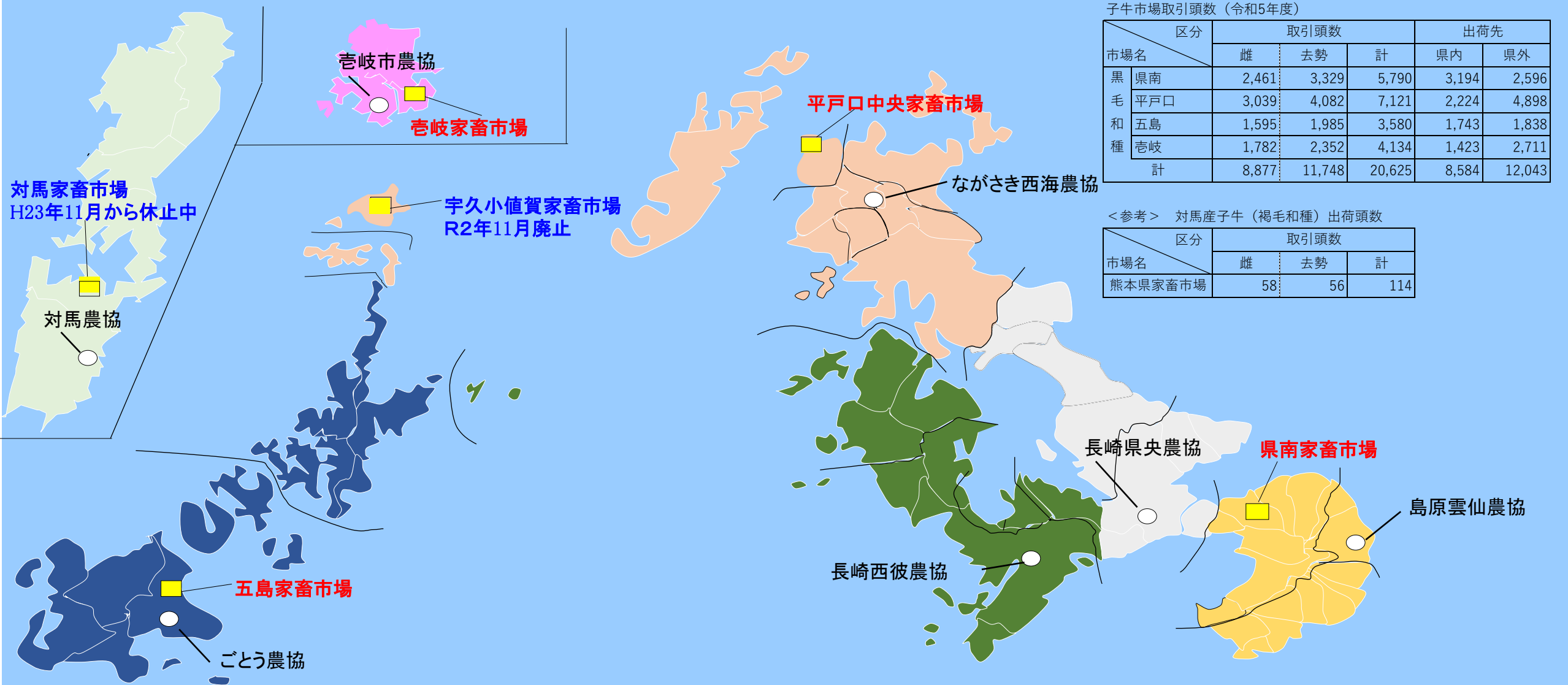
【出典】長崎平均：県内家畜市場「家畜市場(子牛・成牛)取引成績報告書」(R6.6は杵岐家畜のみ)

九州平均、全国平均：alicHP「主要な家畜市場における子牛の取引状況(黒毛和種)」※

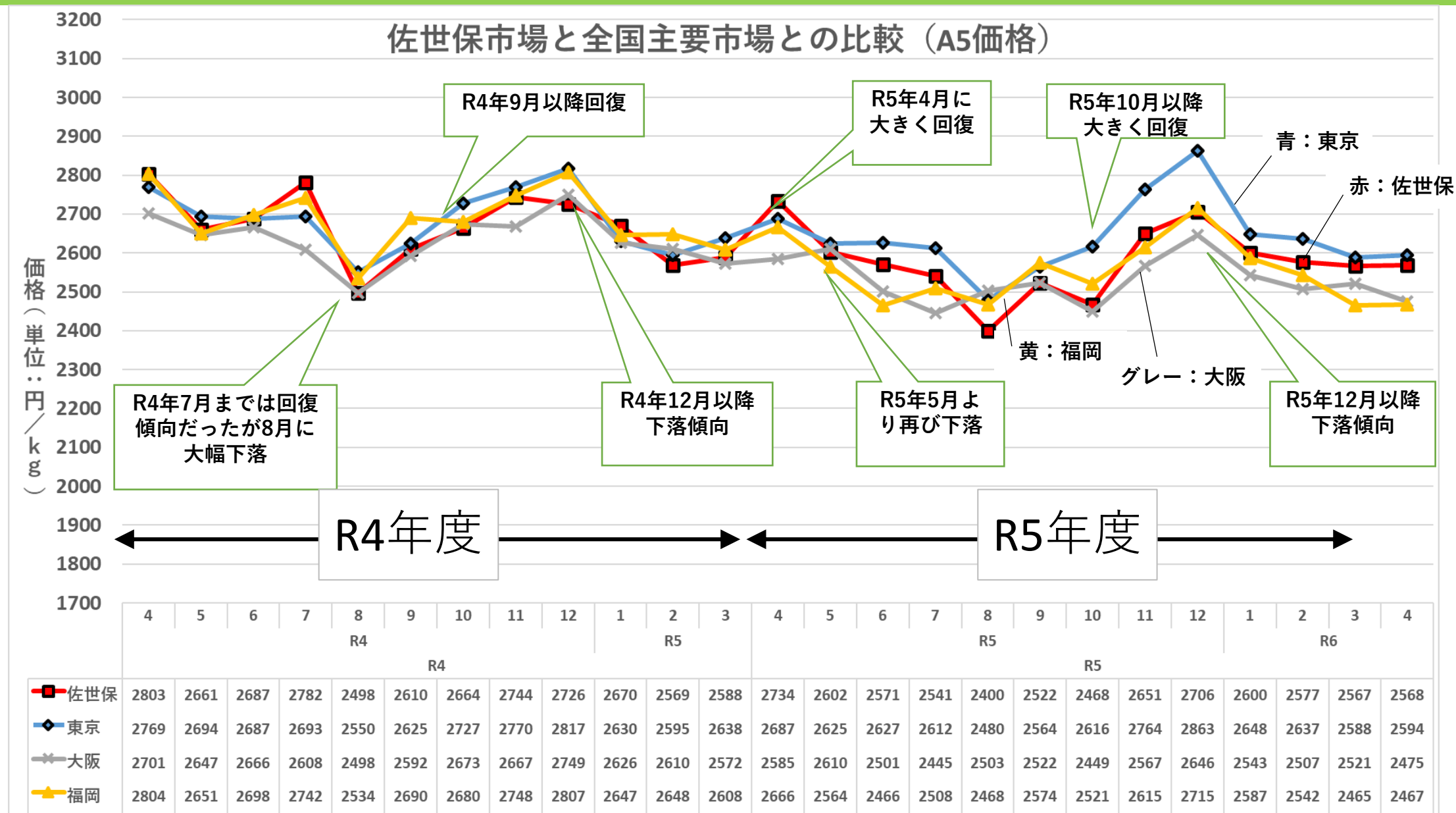
長崎(褐)平均：対馬振興局 熊本家畜市場結果報告

※ただし、直近月(R6.6)における平均価格(単位:千円)は、令和6年6月10日alicHP公表分(令和6年6月9日取引分)までの公表値に限る。

長崎県の家畜市場（R6. 6現在）



長崎県内における枝肉価格の動向 (R6. 4現在)



長崎県の肉用牛ヘルパー利用組合

長崎県畜産課調べ

No.	名称	所在地	設立	活動内容	備考
1	小値賀町肉用牛ヘルパー組合	小値賀町	平成 7年	飼養管理、出荷、飼料収穫	
2	津吉地区モーモーかうかうヘルパー会	平戸市	平成 9年	飼養管理、出荷、削蹄・除角	
3	鷹島町和牛部会	松浦市	平成11年	除角	
4	宇久地区和牛ヘルパー組合	佐世保市	平成12年	飼養管理、出荷、削蹄・除角、飼料生産	
5	小値賀島ごと放牧組合	小値賀町	平成20年	雑木除去、追肥	
6	和牛ヘルパー	壱岐市	平成25年	給餌、人工授精、分娩作業補助	
7	深江町和牛部会	南島原市	平成25年	削蹄作業補助	
8	五島地域肉用牛ヘルパー組合	五島市	平成25年	飼養管理補助	定休型
9	生月和牛ヘルパー組合	平戸市	平成26年	飼養管理補助	定休型
10	松浦和牛定休型ヘルパー組合	松浦市	平成28年	飼養管理補助	定休型
11	南島原市肉用牛ヘルパー利用組合	南島原市	平成28年	飼養管理補助	定休型
12	南部地区肉用牛ヘルパー利用組合	南島原市	平成29年	飼養管理補助	定休型
13	壱岐地域定休型肉用牛ヘルパー組合	壱岐市	平成29年	飼養管理補助	定休型
14	高来小長井おたすけ組合	諫早市	平成29年	飼養管理補助	定休型
15	三ツ島定休型肉用牛ヘルパー組合	諫早市	平成31年	飼養管理補助	定休型
16	大島和牛定休型ヘルパー組合	平戸市	令和元年	飼養管理補助	定休型
17	東彼杵町定休型肉用牛ヘルパー組合	東彼杵町	令和元年	飼養管理補助	定休型

令和6年度 肉用牛振興関係主要事業



背景・目的

- ✓ 肉用牛産出額&飼養頭数全国第5位、県農業産出額(肉用牛)18年連続第1位(275億円(R4))の一方、高齢化や担い手不足から飼養戸数は年々減少し、飼料価格高騰や子牛価格の低迷等により経営環境が悪化
- ✓ 生産基盤の維持・強化、コスト縮減、高品質化に向けて、畜産クラスター協議会との連携を強化し、地域課題解決に向けた経営構造強化と、外的要因に左右されにくい生産基盤の確立を図り、農家所得向上を推進

(主な目標) 飼養頭数繁殖(R2:31,316頭⇒ R7:33,000頭)、肥育(R2:24,103頭⇒ R7:27,000頭)※長崎県畜産課調べ(R2.4.1現在)
繁殖分娩間隔(R2:392日⇒ R7:380日)、枝肉重量(去勢)(R2:504.6kg ⇒ R7:530kg)

現状・課題

- 高齢化等による戸数減少の進行、既存経営の規模拡大や経営継承を含む新規就農者の確保
- 飼料価格や畜舎建設費の高止りと子牛・枝肉価格の低迷、コスト縮減・生産性向上対策
- 経営環境が厳しい肥育経営における資金繰り悪化、長崎和牛の生産頭数の維持・回復
- 国際化の進展や枝肉品質向上による産地間競争を生き抜くための高品質化や差別化
- 第13回北海道全共(R9)日本一獲得に向け脂肪の質等に着目した計画的な出品対策

主な事業

- 畜産クラスター構築事業(継)【予算:691,300千円(肉用牛)】
 - ・ 新規就農者や畜産クラスター計画に位置づけられた中心的経営体の規模拡大、地域内分業体制構築のために必要な飼養管理施設の整備等を支援(国庫)
- シン長崎和牛生産拡大推進事業(新)【予算:53,200千円】
 - ・ 優良な県有種雄牛産子の県内市場等からの導入・保留を支援
 - ・ 長崎和牛生産者登録制度に登録した経営体の肥育素牛導入を支援
 - ・ 肥育経営の近代化資金自己負担分等の借入にかかる利子補給
 - ・ 肥育経営改善に向けた研修会等の開催を支援
- 肉用牛生産構造強化促進事業(R5補・新)【予算:70,160千円】
 - ・ 繁殖経営が新たに肥育を開始する一部一貫の取組を支援
 - ・ 肥育農家の県内家畜市場からの肥育素牛導入による増頭を支援
 - ・ 分娩間隔短縮につながるICT機器を整備する経費の一部を支援
 - ・ 国庫事業を活用し子実用とうもろこし等の生産拡大を図る取組を支援
- 肉用牛経営緊急支援事業(R5補・新)【予算:60,152千円の内数】
 - ・ 受精卵移植を活用して高能力な母牛を整備する経費の一部等を支援
- 次世代高能力雌牛群整備促進事業(継)【予算:19,445千円】
 - ・ 繁殖雌牛に対するゲノミック評価を実施(委託事業)
- 肉用牛経営開始円滑化支援事業(継)【予算:2,436千円】
 - ・ 牛舎整備に取組む新規就農者の導入牛を一時的に預託するために生産者団体等が実施する取組を支援
- 新たな放牧体型確立促進事業(継)【予算:3,675千円】
 - ・ 畜産農家と集落組織の連携による放牧場(牧柵)の整備や補改修、ICT機器を活用した放牧の推進により、繁殖基盤の強化を図る
- 長崎県飼料増産推進事業(新)【予算:1,410千円】
 - ・ 他産業からの円滑な飼料生産組織への参入等を支援

効果

- 中心的経営体の増頭体制整備や省力化
- 長崎和牛生産基盤の維持・強化
- 一部一貫化による経営リスク低減
- 肥育農家の経営改善・安定
- 生産性向上・スマート畜産の実現
- 高能力な繁殖雌牛群の整備等による長崎和牛品質及びブランド向上
- 飼料コスト縮減
- 自給飼料生産増進による飼料自給率向上

・ ・ ・
長崎和牛の高品質化・ブランド力強化
コスト縮減・生産性向上
社会情勢に左右されない生産基盤強化

農家所得向上

【産出額(肉用牛)】
(R2実績)234億円
↓
(R7目標)274億円

都道府県ベスト10（令和5年2月1日現在）

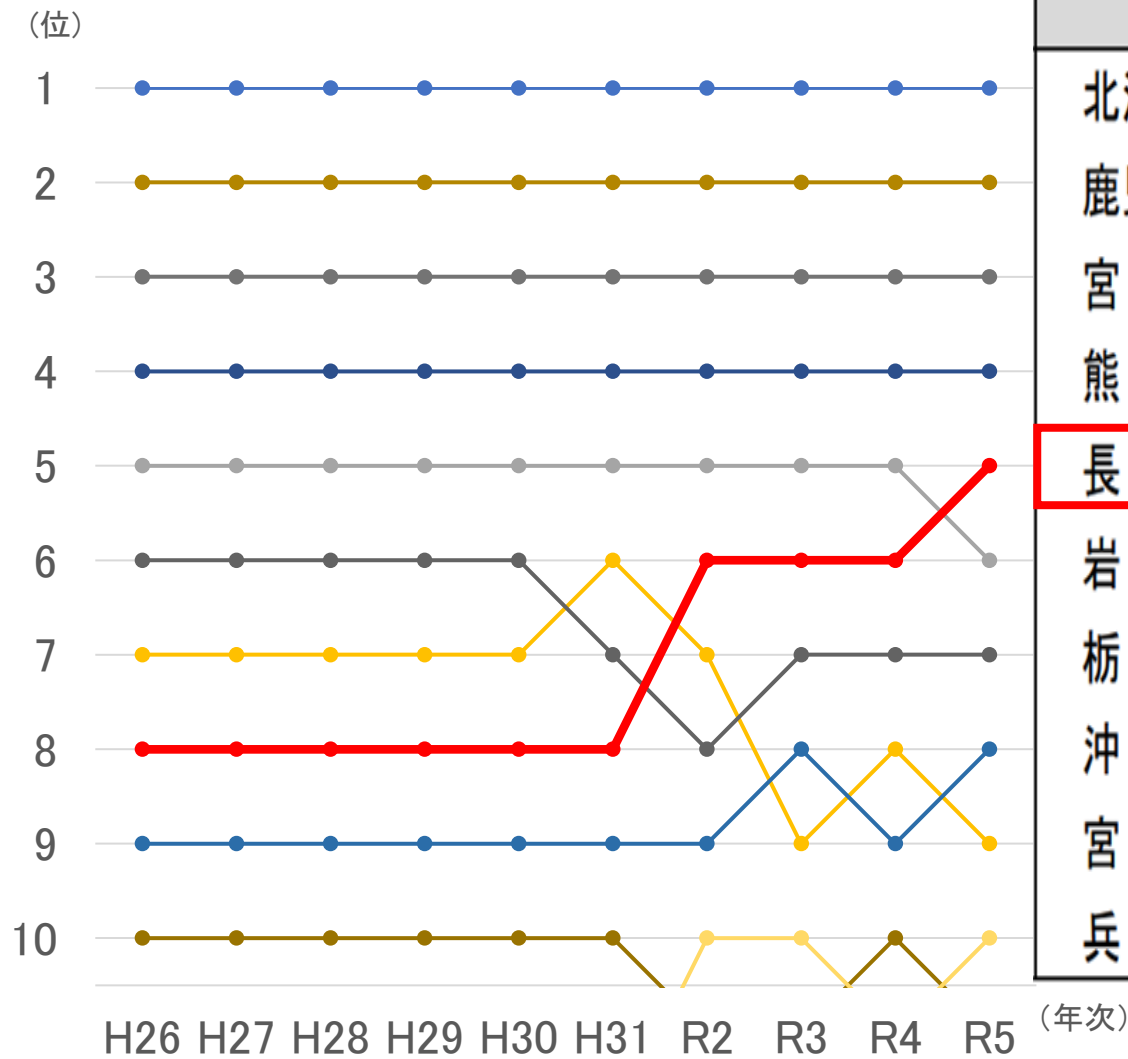
【肉用牛】

順位 (飼養頭数)		都道府県	飼 養 頭 数			(参考) 飼 養 戸 数			1戸当たり 頭 数 〔頭〕	子取り用 めす 〔頭〕	順位	肥育用牛 〔頭〕	順位
今年	前年		〔頭〕	対前年比 〔%〕	シェア 〔%〕	〔戸〕	対前年比 〔%〕	シェア 〔%〕					
1	1	北海道	566,400	102.4	21.1	2,180	97.3	5.6	259.8	76,400	3	63,300	3
2	2	鹿児島	357,800	105.9	13.3	6,350	94.9	16.5	56.3	121,200	1	152,900	1
3	3	宮 崎	260,200	102.2	9.7	4,700	95.1	12.2	55.4	86,000	2	90,400	2
4	4	熊 本	139,100	104.1	5.2	2,090	96.3	5.4	66.6	43,700	5	41,800	4
5	6	長 崎	91,700	104.1	3.4	2,080	95.4	5.4	44.1	30,900	6	25,200	9
6	5	岩 手	89,000	99.8	3.3	3,440	94.2	8.9	25.9	29,600	7	21,100	12
7	7	栃 木	84,900	100.6	3.2	772	96.6	2.0	110.0	13,300	13	20,900	13
8	9	沖 縄	81,000	103.8	3.0	2,140	98.6	5.5	37.9	45,200	4	6,100	33
9	8	宮 城	80,100	100.1	3.0	2,550	94.8	6.6	31.4	26,400	8	27,700	7
10	11	兵 庫	58,800	104.3	2.2	1,090	95.6	2.8	53.9	17,900	10	24,500	11
全 国			2,687,000	102.8	100.0	38,600	95.5	100.0	69.6	645,200		830,500	

資料：農林水産省「畜産統計」

肉用牛飼養頭数が拡大し、全国5位に上昇

肉用牛飼養頭数の道府県順位



都道府県	飼養頭数		
	〔頭〕	対前年比〔%〕	シェア〔%〕
北海道	566,400	102.4	21.1
鹿児島	357,800	105.9	13.3
宮崎	260,200	102.2	9.7
熊本	139,100	104.1	5.2
長崎	91,700	104.1	3.4
岩手	89,000	99.8	3.3
栃木	84,900	100.6	3.2
沖縄	81,000	103.8	3.0
宮城	80,100	100.1	3.0
兵庫	58,800	104.3	2.2

令和5年2月1日現在

肉用牛飼養頭数が拡大し、全国5位に上昇